

第三回定期勉強会アブストラクト

京都大学文学部第4講義室

2016年4月17日(日)10:00～18:30

タイムテーブル

- 10:00～12:00 西田幾多郎『善の研究』 人間の最深なる要求
- 12:00～13:00 休憩
- 13:00～14:30 「共感」する人工知能
- 14:45～16:15 Virtual Reality / Artificial Intelligence が拓く未来
- 16:30～17:30 ヴィトゲンシュタインと哲学入門
- 17:45～18:30 懇親会

(変更の可能性があります)

西田幾多郎『善の研究』 人間の最深なる要求

善とはどういうことか。盲目的に規則に従うことでも、言われたことを守ることでもなければ、徒に己の快楽に身を任せたり、物質的な利益を求めたりすることでもありません。これは、人間とは何か、あるいは生命とは何か、ひいては世界の真相(实在)とはどういうものかといった問題と密接なつながりを持っています。同一と言ってもいいかもしれません。

この講義は、前回に「西田幾多郎『善の研究』 意識に始まる世界観」というタイトルでお話しした、世界の真相はいかなるものかという話の続きという形ではありますが、私自身の理解の浅さもあって、十分な解説はできていなかったのもう一度説明させていただきたいと思っています。ですので、前回来られなかった方でも問題なく聞いていただけたと思います。

さて、この講義では、意識現象が唯一の实在であると考えざるを得ないという実感をもとに、实在について考察を加え、人間や生命、善悪の基準という問題へとつなげていきます。また、夢中で何かに没頭する天才と普通の人の違いや、度々話題になっている、「数学って役に立つんですか?」とか、最近では「重力波って役に立つんですか?」といった疑問を投げってくる、役に立たないことをやるということが認められない人々への反論として、純粋な学問的探求とはどういうものかについても、『善の研究』を基礎においてどう考えられるかということも述べたいと思います。

「共感」する人工知能

2016年は機械学習が人間の感情理解へ応用される年になると、ある著名な研究者は予測している。人のような知能を実現するためには人のような身体が必要であるとする身体性の議論、感情という記号を獲得するための最新の試みなどを紹介しながら、計算機科学、神経科学、哲学、社会学など様々な観点から「共感」する人工知能について議論する。

「Virtual Reality / Artificial Intelligence が拓く未来」

VR や AI 技術が進歩することで、生活や価値観はどのように変化するのか。GTC2016 (GPU Technology Conference 2016) での最新技術を紹介するとともに、情報技術が拓く未来について考察する。

ヴィトゲンシュタインと哲学入門

なぜ自分は生きているのか？不思議に思ったことはありませんか。哲学は、普段は忘れているけれどしかし人間にとって根本的な、さまざまな問いに答えようと格闘してきました。なぜものが存在するのか？言葉が通じるのはどうして？

20世紀最大の哲学者とも言われる、ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインも、そういったさまざまな問いに答えようとしたうちの一人でした。

生きているということは、考えれば考えるほど不思議なものです。

哲学に造詣の深い人も、全然知らない人も、改めてその不思議さを味わうとともに、問題の解決を、人はその問題の消滅によって気づくと考えた、『論理哲学論考』にみる前期ヴィトゲンシュタインなりの答えを見ていきましょう。

語りえぬものに対しては、沈黙しなければならない。